

の差はあまり大きくないか、またはほとんどないといえよう。

鉄と洗剤の相互作用に基づく布の着色汚染差は、洗剤濃度よりは鉄の状態別、洗濯用水の pH により左右されることが明らかになった。

24. 洗濯水中の化学成分と洗剤の布におよぼす影響 (第3報)

相山女学園大 ○山内 和子

小林 重喜

1. 演者らは1, 2報において、洗濯水の化学成分中特に鉄は合成洗剤との相互作用により布を汚染すること、およびその汚染の状況などについて報告した。

今回は洗剤濃度が変化するとき、この鉄に基づく着色汚染がどのような影響を受けるかを検討してみた。

2. 試料布としては木綿の平織のみを使用した。これは前回迄の実験により鉄による布の着色汚染は、主として鉄と洗剤の化合物が物理的に吸着して起ることが考えられたからである。

洗剤は市販洗剤の主成分のうち化学系統の異なるものを選んだ。すなわちアニオン型として高級アルコール硫酸エステル系とアルキベンゼン系を、非イオン型としたポリオキシエチレン系を用いることとした。洗剤濃度は0.1%, 0.2%, 0.3%, 0.5%とした。

洗濯方法は前回までと同様にした。

また洗濯水の pH はそれぞれ緩衝溶液を用いて調節した。

3. 本実験で採用した程度の洗剤濃度による着色汚染